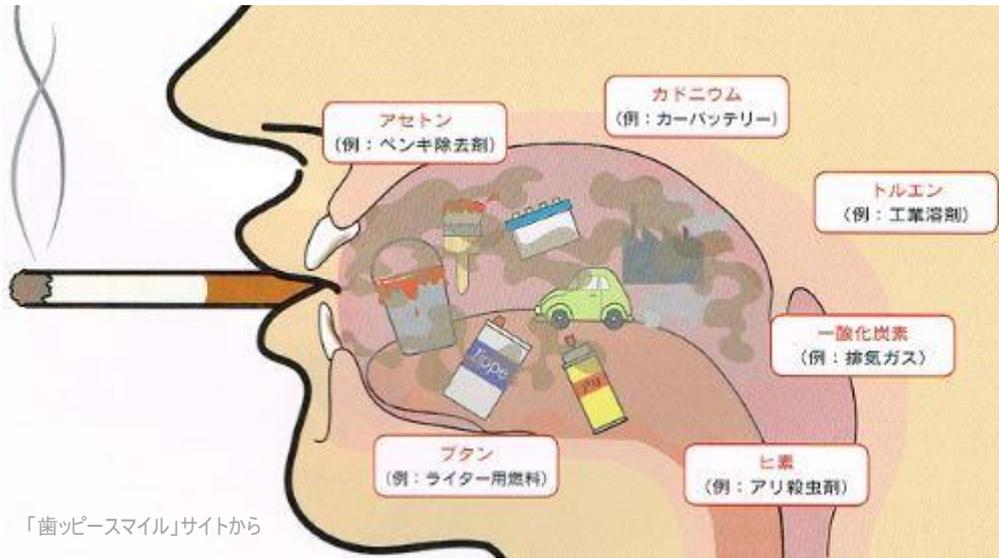


**週刊 タバコの正体**

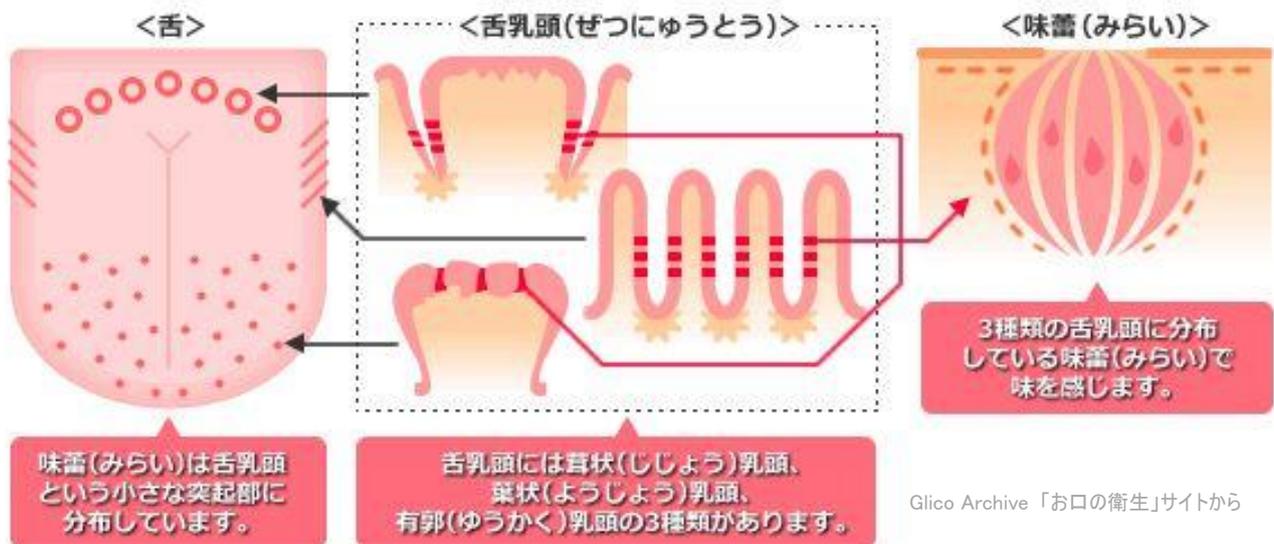


「歯っぴースマイル」サイトから

タバコの煙には多くの有害物質が含まれています。ペンキの除去剤として使われるアセトンや、アリの殺虫剤に使われるヒ素なども含まれているので、喫煙すると口の中は左図のようなイメージになります。

こんな煙が充満する口の中にある器官が悪

影を受けてもおかしくありませんよね。じつは、味を感じる舌もタバコの有害物質の影響を受けています。下図にあるように舌の表面には“舌乳頭(ぜつにゅうとう)”という小さな突起があり、そのなかにある“味蕾(みらい)”という器官で味を感じるのです。これが味のセンサーなのですが、タバコの煙はこのセンサー機能を低下させます。



Glico Archive 「お口の衛生」サイトから

つまり、タバコを吸うと味覚が鈍り、食べ物本来の味を感じられなくなってしまいます。その証拠に、禁煙した人達の多くは、「タバコをやめたら、食事が美味しくなった」と語るそうです。それもそのはず、こんな有害物質が入った煙にさらされたら、舌全体が麻痺させられそうですからね。

タバコを吸うと美味しいはずの食事も、本来の味を感じられなくなるのですから、すぐもったいない気がしませんか。そう考えるとタバコは健康被害を及ぼすだけではなく、生活の質も低下させてしまいます。

産業デザイン科 奥田 恭久